

第2回学識者等による若手の会・NB ミーティング合同勉強会

(1) 実施概要

日 時：平成24年11月30日（金） 18:50～20:30

会 場：センタープラザ西館6階会議室

出席者：講師：池田 孝之氏（琉球大学名誉教授）

《普天間飛行場の跡地を考える若手の会》

大川 正彦（会長）、呉屋 力（副会長）、伊佐 力、呉屋 栄治、富川 盛光、
宮城 敏彦、宮城 武、宮城 克、我如古 隆

《ねたてのまちベースミーティング》

新里 均、前田 啓文、松川 寛重

《宜野湾市軍用地等地主会》

佐喜眞 祐輝、伊佐 貴子

《事務局（宜野湾市基地政策部基地跡地対策課）》

仲村 等、渡嘉敷 真

《事務局（昭和株式会社）》

安藤 彰二、崎山 嗣朗、嶋岡 強太、平井 茉美

内 容：3つのグループに分かれ、池田先生から「普天間公園に求めるもの」と題し、
以下のような3つのテーマが与えられ、その中から各グループでテーマを一つ
選び、視察先から得たもの、ヒントを盛り込みながら議論しまとめた。

テーマ①：市民、県民はどのような公園を望み、そこでどのような利用をした
いか

テーマ②：企業はどんな施設を立地させ、そのための環境整備条件として何を
求めるか

テーマ③：国、県、市は整備主体としてどのように分担し、それぞれが（ある
いは一体として）どんな公共・公益施設を、どのように管理するか

配布資料：次第



写真：検討テーマを発表する池田先生



写真：グループ検討の様子

(2) 検討内容及び総評・質疑応答

①Aグループ（呉屋 力、我如古 隆、宮城 克、新里 均、佐喜眞 祐輝）

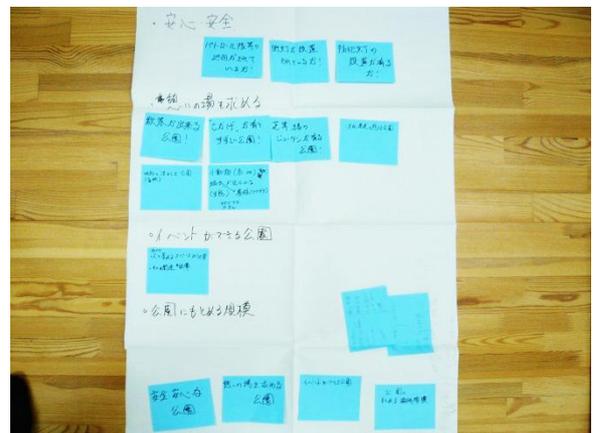
テーマ：市民、県民はどのような公園を望み、そこでどのような利用をしたいか

○発表内容

発 表	<p>我々のグループでは、公園ということで大きく①「安全・安心」、②「憩いの場を求める」、③「イベントができる公園」、④「公園に求める規模」について取りまとめを行った。</p> <p>①「安全・安心」</p> <p>まず、「安全・安心」というところでは、パトロール隊等の巡回がされているか、外灯が設置させているか、防犯灯（防犯カメラ）が設置されているかといった、セキュリティ面が充実した公園が今後求められるのではないかという意見があった。</p> <p>②「憩いの場を求める」</p> <p>「憩いの場を求める」というところでは、木陰があり散策して涼しい点や寝転がるというところで芝等、緑のじゅうたんがあるといった点は公園に欠かせないという意見が出ている。また、観光客も考慮に入れ、公園にいて文化・歴史を感じられるような工夫・仕掛けを行うことも必要だという意見が出ている。さらには地形（自然）を活かし、小動物（鳥など）や昆虫が見られる公園も面白いのではないかという意見が出されている。</p> <p>③「イベントができる公園」</p> <p>「イベントができる公園」というところでは、子供たちのサッカーや野球といったスポーツやコンサートなどがイベントとして考えられるが、そういった多くの人が集まってイベントができるスペースをまずは確保するという意見と、その関連する設備をしっかりと整えることが必要ではないかという意見が出されている。</p> <p>④「公園に求める規模」</p> <p>その中から「公園に求める規模」について議論しようというところで時間が来てしまったため、この点については途中までしか議論できていない。</p>
-----	---



写真：Aグループの発表の様子



写真：Aグループのワークシート

○総評・質疑応答

- | | | |
|------|---|--|
| 質 | 問 | イベントについてだが、今日行ったフラワータウンでは、円形劇場で騒音の問題等が取り上げられていたが、その点については考慮されているのかお聞きしたい。 |
| 回 | 答 | 騒音の問題については話し合いの中でも出てきた。しかし、フラワータウンはその点が考慮されておらず、イベント広場のすぐ近くに住宅があったことが問題だと思う。公園の規模については、多くの人が参加できるような規模を想定している。 |
| 池田先生 | | 普天間公園であれば、かなり規模が大きくなるので、コンサート等のイベントはとてもニーズがあると思う。今日見たフラワータウンは、高層のマンションを周りに建ててしまったのが問題。要は音が外に漏れないような仕掛けを作っていない。音を漏らさないという点で一番良いのは、周りに森林を作ること。緑があればそれがバッファになって、音が外に漏れない。高層のマンションとなると音がもろにぶつかってしまうが、音を遮断・緩和するような作り方と、周辺における建物の建て方を工夫すれば、イベントもできる。 |
| 質 | 問 | サッカーや野球、コンサート以外に、ハングライダーなどもっと大きなイベントは、今日の話の中ではでなかったか。本土の方では、そういったイベントが多い。 |
| 回 | 答 | 今日の話し合いの中ではそこまで出ていない。水、風、太陽等をテーマにしたイベントをイメージしている。 |

②Bグループ (大川 正彦、呉屋 栄治、宮城 武、松川 寛重、渡嘉敷 真)

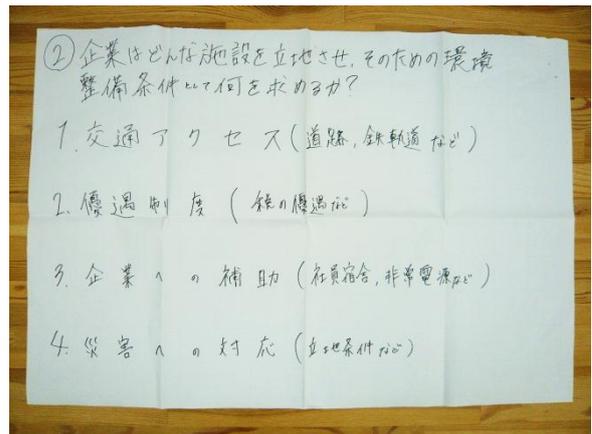
テーマ：企業はどんな施設を立地させ、そのための環境整備条件として何を求めるか

○発表内容

発	表	<p>我々のグループでは、企業立地と環境整備条件ということで、①「交通アクセス（道路、鉄軌道など）」、②「優遇制度（税の優遇など）」、③「企業の補助（社員宿舎、非常電源など）」、④「災害への対応（立地条件など）」を柱として話をを行った。</p> <p>①「交通アクセス（道路、鉄軌道など）」 企業立地に向けては、彩都（国際文化公園都市）や播磨科学公園都市を視察した中で、道路や鉄軌道（モノレール）などやはり交通アクセスを高めることは重要だと感じた。</p> <p>②「優遇制度（税の優遇など）」 二点目に「優遇制度（税の優遇）」ということで、不動産所得税の半額や固定資産税の免除といった優遇が必要だと考えている。</p> <p>③「企業の補助（社員宿舎、非常電源など）」 三点目は、「企業の補助（社員宿舎、非常電源など）」ということで、播磨科学公園都市にあったような社員宿舎のように、企業で働く人たちが住みやすい環境を整えることが必要だと考えている。</p> <p>④「災害への対応（立地条件など）」 最後に「災害への対応（立地条件など）」ということで、やはり災害によって影響が出ることを恐れるため、地震・津波といった災害に耐えられるように、海拔が高く、かつ地盤も固いところに立地できるようなゾーニングを考えるべきだと感じている。</p>
---	---	---



写真：Bグループの発表の様子



写真：Bグループのワークシート

○総評及び質疑応答

質	問	<p>交通アクセスについてだが、沖縄では、現在貨物ハブとしての機能が大きく活躍している。さらに沖縄県から本土の各都市へ飛ぶ便が多くあり、ある意味で、人と貨物のミニハブ化になっている。それを利用して普天間で何ができるかと</p>
---	---	---

いう話はでなかったか。

回 答 その点については出ていないが、企業側の立場で考えたときに、やはり普天間へのアクセス（道路、鉄軌道など）が整っていないと誘致は難しいのではないかという意見が多かった。

池 田 先 生 確かにアクセスは重要だが、どこと繋ぐものなのかを考える必要もある。彩都では、大都市である大阪の中心から 30 分で行けるモノレールが整備されており、それが人口増に繋がっている。企業目から見たらどこと繋ぐかという点で、ただの交通アクセスではなく、港湾や空港といった拠点と結ばれていないと企業にとっては魅力が薄いと思う。

質 問 地域資源の活用という意味で、洞穴を利用した観光などの意見は出なかったか。

回 答 観光面の話も出てはいたが、具体的な話し合いはされていない。

意 見 今日の播磨科学公園都市では、IT の発展により、当初の目論見が崩れたというお話があったが、本社が東京にあっても普天間に施設を作りたいと思わせるような魅力的な条件を考えることが重要かと思う。

池 田 先 生 テーマにあるように「企業がどんな施設を立地するか」という点で、IT、観光、流通それぞれの視点で何を求めるかを考えることも必要。また、「普天間公園に求めるもの」という大テーマがある。普天間全体ではなく、公園ということで、公園に馴染む企業でなければならない。流通産業は公園には馴染まないと思う。公園に馴染む企業を挙げるとすれば、IT、観光、研究関係などだと思う。そういった企業が進出するとすれば、どういった条件を整備する必要があるかということ。

意 見 環境配慮をアピールしているような企業を誘致するのも良いのではないか。例えば電気自動車などの車関係の会社。

回 答 捕捉になるが、公園に馴染む企業として、研究施設ではバイオや薬草等の農業関係が馴染むのではないかという意見が出ていた。お話の合った IT 施設も意見として出ている。また、公園の緑地を活かすという点において、保養施設というのも意見として挙がっている。

③Cグループ（伊佐 力、富川 盛光、宮城 敏彦、前田 啓文、伊佐 貴子、仲村 等）

テーマ：国、県、市は整備主体としてどのように分担し、それぞれが（あるいは一体として）どんな公共・公益施設を、どのように管理するか

○発表内容

発 表 我々のグループでは、行政としての管理面に関するテーマということで、一番難しいテーマだったと感じている。このテーマに対して、国、県、市でどのように役割分担を行い、管理するかについて話し合いを行った。

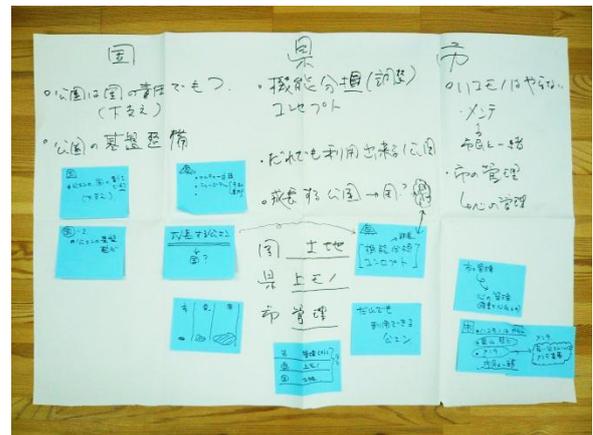
①国（土地）
まず国だが、公園の責任に関しては国で持ち、基盤整備を行うという意見がまとまっている。

②県（上物整備）
県の立場としては、機能分担（調整）を行うということを考えている。また、上物の整備についても、国でも市でもなく、県にやってもらえないかと考えている。また、仮に公園を国が管理したとして、万博公園のように有料公園となってしまうとは利用される方が限られてしまうため、誰でも利用できるように柔軟性を持った公園でないといけないという意見がまとまっている。

③市（維持管理）
市の役割としては、予算も限られているため、ハコモノの整備はせずに維持管理（メンテナンス）を行うという意見がまとまっている。また、維持管理については、利用する市民と一緒にいっても良いのではないかと意見も出されている（公園に対して愛着が湧き、落書き等も減る）。



写真：Cグループの発表の様子



写真：Cグループのワークシート

総評及び質疑応答

池田先生 お金の面になるが、上物の整備はできたとして、広大な公園になることが想定されるが、その後の管理・運営費はどう捻出するのか。国営であれば、毎年国が出してくれると思うが。

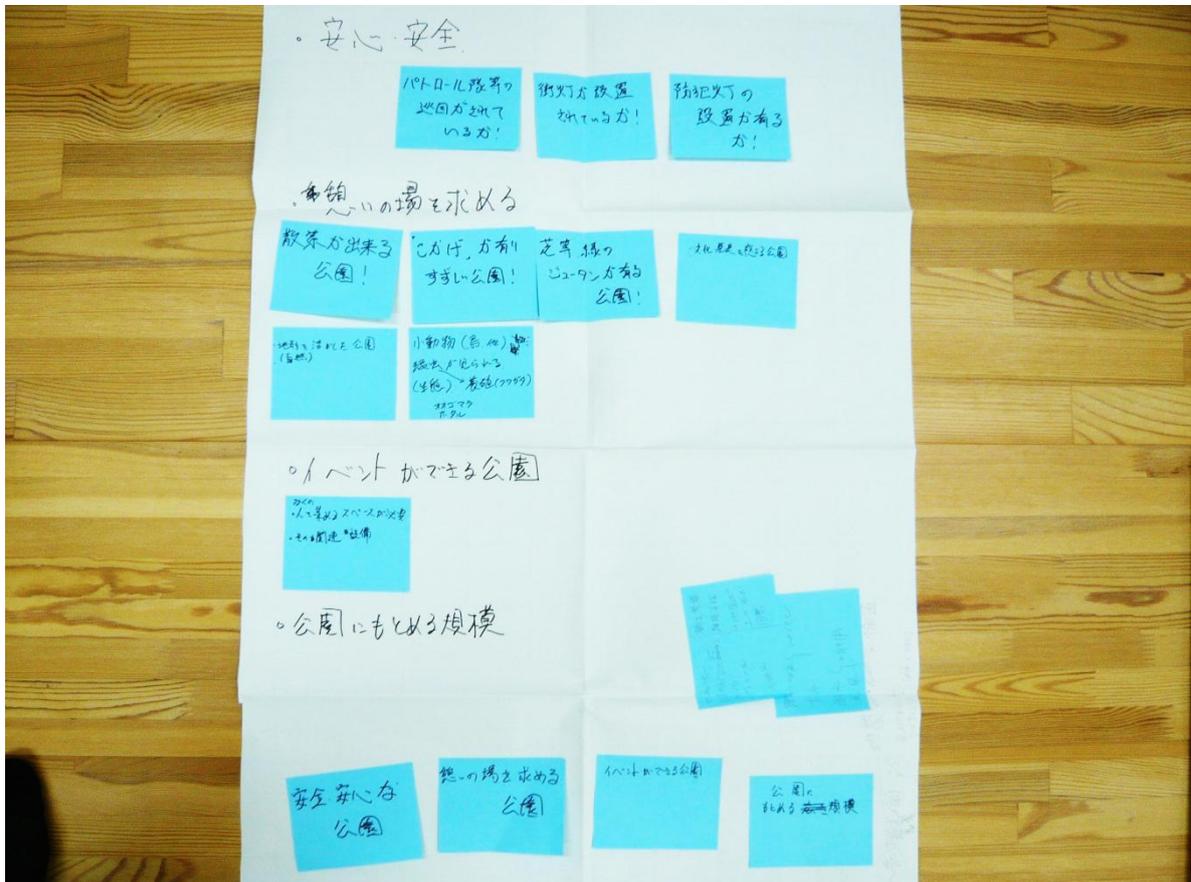
回 答 | イニシャルコストは国に下支えしてもらおう形で考えている。市は、市民に一番近い立場でもあるため、市民と一緒にできることに限定して、あまりお金をかけないことをやる。その中で県は板挟みになっているが、県は他とのネットワークづくりを行い、上物の整備については何とか県にやってもらえないかと考えている。

池 田 先 生 | 国は土地、県は上物、市は維持管理の考え方は面白い。

質 問 | 維持管理費を捻出するための方法としては、何か考えられているか。

池 田 先 生 | 例えば今日見た播磨科学公園都市は、バブルの影響もあるが、ほとんど県の施設となっている。先程の企業との関連で、研究・研修施設を公園の中に作ることは簡単にはできない。おそらく特区のような制度を作る必要があると思う。

質 問 | 維持管理費をどう捻出するかというお話が出ているが、例えば管理財団を作って、上物となる施設を県が作る。その運営までを任して維持管理費を捻出する方法はどうかと考えている（第3セクター）。



写真：Aグループのワークシート

② 企業はどんな施設を立地させ、そのための環境整備条件として何を求めるか？

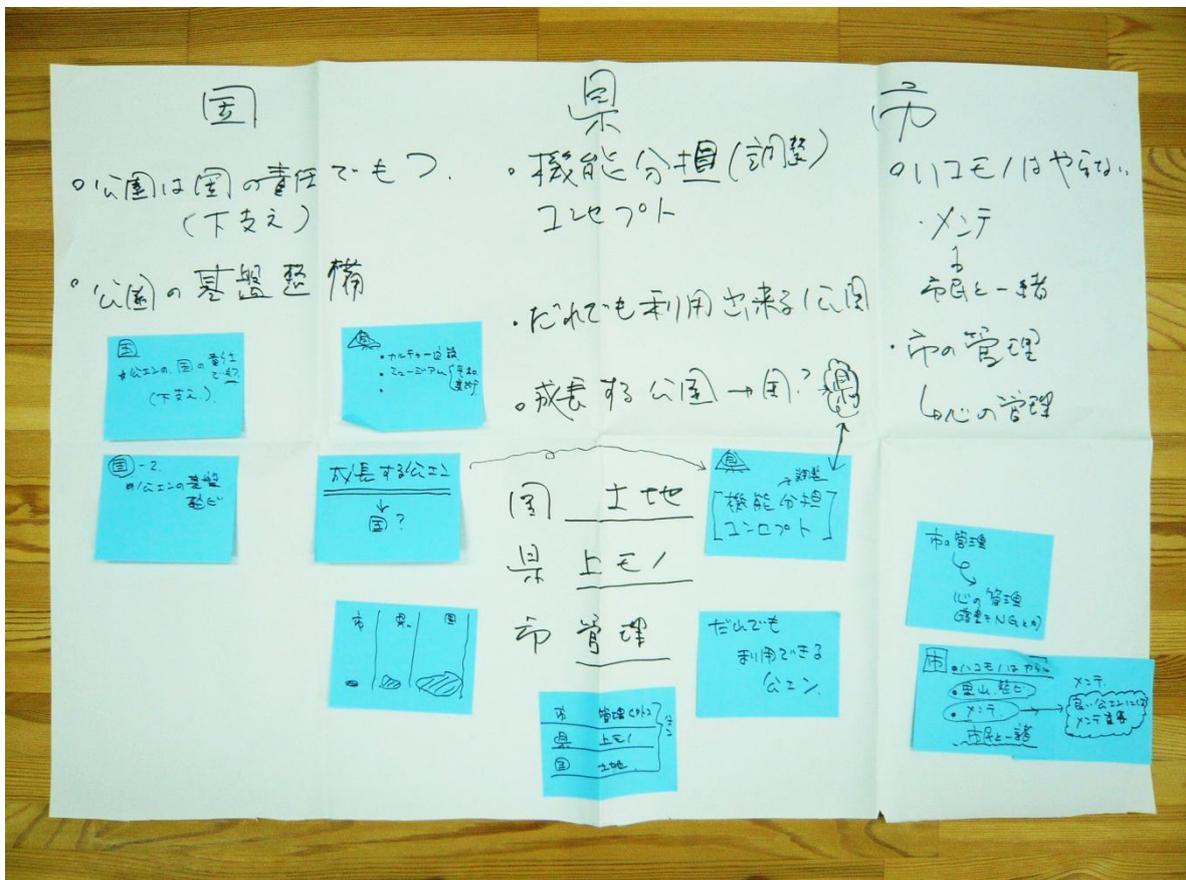
1. 交通アクセス (道路, 鉄軌道 など)

2. 優遇制度 (税の優遇など)

3. 企業への補助 (社員宿舎, 非常電源など)

4. 災害への対応 (立地条件など)

写真：Bグループのワークシート



写真：Cグループのワークシート